

2018年度 行事報告

【総会】

日時：2018年6月23日（土）
場所：佐倉城址公園
参加者数：76名（大人71名、子供5名）

総会が佐倉城址公園で行われました。事務局より29年度会計報告と30年度世話人、行事予定の提案があり、承認されました。

【82回観察会】

日時：2018年6月23日（土）
場所：佐倉城址公園
参加者数：76名（大人71名、子供5名）
採集数：同定：50種、未同定：25種以上

今にも雨が降りそうな天気の中、同定会場のプレハブ前の芝生で集合写真を撮り終えた後、城址公園の森の中をきのこ採集のため、会員メンバーは三々五々に消えて行った。私は前橋から初参加の中林さんとゆっくりきのこ探し。名前の分からない小さなきのこが僅かに出ていたが、案内するほど佐倉城址公園を良く分かっていない。ゆっくり歩んでいたら中林さんがイロハモミジの木の上に出ているヤナギマツタケを見つけた。木の上じゃ無理？と思っているところに会長の金城典子氏と会員の男性と女性が採集から戻っていらした。そのヤナギマツタケをどうやって採るか？思案していたら勇気ある女性が傍の男性



第82回観察会 集合写真 2018年6月23日 於：佐倉城址公園

に肩車をして貰うことに・・・

中林さんの杖をお借りして何とかGetしたのが写真のヤナギマツタケ。同定会が済んで女性3人で1～2枚ずつ分けた。自宅で網焼きにして食べたが感想を述べる程の量ではなかった為か？上手く表現できない。コメントは次の機会にしよう。(高野和子)



観察記録 (50音順) ()内は博物館の標本番号
 アイゾメタケ、アイバシロハツ(FB-43729)、アカダマキノガサタケ、アミスギタケ、アミヒダタケ(FB-43745)、アンズタケ、イロガワリ、ウチワタケ、オオツルタケ、オオホウライタケ、オキナクサハツ(FB-43730)、オリーブサカズキタケ(FB-43750)、カレバキツネタケ(FB-43743)、カンゾウタケ、キクラゲ、キツネノハナガサ、キノガサタケ(FB-43742)、キヒダタケ、クサウラベニタケ、クモタケ(FA-43734)、クロタマゴテングタケ(FB-43747)、クロラッパタケ(FB-43746)、ケショウハツ(FB-43733)、ケシロハツモドキ(FB-43728)、

コキララタケ(FB-43752)、コツブヒメヒガサヒトヨ(FB-43753)、コフキサルノコシカケ、コブリビロードツエタケ(FB-43744)、シロカノシタ、シロハツ、スジウチワタケモドキ(FB-43735)、ダイダイガサ、チチアワタケ、ツチグリ、ツチナメコ、ツヤウチワタケ(FB-43731)、ツルタケ、テングタケ、トキイロヒラタケ、ノウタケ、ノボリリュウ(FA-43739)、ハイイロイタチタケ(FB-43736)、ハリガネオチバタケ、ヒロロベニヒダタケ(FB-43748)、ヒラフスベ(FB-43737)、ホソネヒトヨタケ(FB-43749)、ミダレアミタケ(FB-43732)、ミヤマオチバタケ、ミヤマザラミノヒトヨタケ(FB-43738)、ヤナギマツタケ、チャワンタケの仲間、ビョウタケの仲間、変形菌(FM-43727)、*Agaricus*、*Cantharellus*、*Clavaria*、*Crepidotus*、*Dacrymyces*、*Entoloma*、*Gymnopilus*、*Inocybe*(FB-43740)、*Inocybe* (FB-43741)、*Lactarius*、*Lepista*、*Marasmiellus*、*Mycena*、*Parasola* (FB-43751)、*Parasola* (FB-43754)、*Pluteus*、*Psathyrella*、*Russula*多数、*Scleroderma*、*Sebacina*、*Strobilomyces*、*Xeroconus*

【83回観察会】

日時：2018年9月30日(日)
 場所：泉自然公園
 参加者数：41名(大人40名、子供1名)
 採集数：同定：63種、未同定：16種

観察会当日の千葉市は朝から土砂降りでしたから、観察会は多分中止と思われた方も多かったのでしょうか。参加者は少なめでした。しかし、幸運にも観察会が始まる頃には雨は止み、きのこも予想以上に多く発生していて充実した観察会となりました。個人的には美しい状態のヤナギマツタケやサンコタケの大発生などが印象深かったです。同定会は泉自然公園近くの白井公民館で行われました。恒例の吹春さんによる「きのこ解説」も終わり、さてそろそろ解散となった時に、外は再び土砂降り状態に。ちょうど観察会に合わせ

たような空模様の変化で、なんだか不思議な一日でした。でも、反対の変化じゃなくて本当にラッキーでした。(吉田悦子)

観察記録 (50音順) ()内は博物館の標本番号
 アカキツネガサ、アメリカウラベニイロガワリ (FB-43945)、ウスキテングタケ、ウスキモリノカサ、ウスヒラタケ、ウラムラサキ、ウラムラサキシメジ (FB-43951)、エリマキツチグリ、オオツルタケ (FB-43952)、オオホウライタケ、オニイグチ (FB-43942)、オニタケ、カノシタ、カレエダタケ、ガンタケ、キイロイグチ、クサウラベニタケ、クリイロイグチ、クロラッパタケ、コガネヤマドリ、コキララタケ (FB-43963)、コブリビロードツエタケ (FB-43961)、コムラサキシメジ、サクラタケ、サマツモドキ (FB-43957)、サンコタケ、シロケシメジ、スッポンタケ (FB-43949)、スミゾメヤマイグチ (FB-43947)、ダイダイガサ、タマゴタケ (FB-43950)、タマゴテングタケモドキ、チシオタケ (FB-43956)、チチアワタケ、ツチグリ、ツチナメコ、ツルタケ、テングタケ、テングタケダマシ (FB-43946)、ドクツルタケ、トゲミノカラカサタケ (FB-43953)、ナナフシテングノメシガイ、ナラタケモドキ、

ニオイワチチタケ、ニガクリタケ、ヌメリカラカサタケ (FB-43960)、ヌメリツバタケ、ノウタケ、ノボリリュウタケ、ハイイロイタチタケ、ハナオチバタケ、ヒマラヤツエタケ (FB-43954)、ヒメムキタケ (FB-43958)、フクロツルタケ (広義)、ベニヒダタケ、ミドリスギタケ、ミドリニガイグチ、ミヤマオチバタケ、ムジナタケ、ヤナギマツタケ (FB-43943)、ヤマドリタケモドキ、ユキラッパタケ、ワサビカレバタケ、チャワソウタケの仲間、*Amanita* (FB-43959)、*Boletus*、*Collybia*、*Hebeloma* (FB-43944)、*Hygrocybe*、*Inocybe*、*Laccaria*、*Lactarius*、*Lepiota* (FB-43955)、*Lepiota*、*Limacella* (FB-43962)、*Lycoperdon*、*Russula*、*Scleroderma* (FB-43948)、*Tylopilus*

【84回観察会】

日時：2018年10月13日 (土)

場所：いちほらくオードの森
 (旧市原市民の森)

参加者数：79名 (大人72名、子供7名)

採集数：同定：74種、未同定：21種

空は明るめの曇り、気温は野外行動にぴったりな少し涼しいくらい、前日までに雨にも



第83回観察会 集合写真 2018年9月30日 於：泉自然公園

そこそこ恵まれ、きのこ観察会にはぴったりの天候。集まったメンバーたちの話し声から「バカマツタケ」という単語がたびたび漏れ聞こえてきて、期待の大きさがうかがえる。前日から養老溪谷入りしていた私もまたその例に漏れず、どんなきのこに逢えるかと思うと昨日のトレッキングの疲れもまったく忘れていた。

しかし歩きはじめると、少し皆より遅れたせいもあるのか、よくあるきのこすら見つからない。去年バカマツタケが生えてたあたりはすでにだいたい前に入った踏み跡がいくつもあつた。無念でつつい奥へと歩を進めるが、さくらコースの階段は50cmあるんじゃないかという段差で、特に下りは足腰地獄だった。きのこさえあればそれも楽しいのだが。

意気消沈し昼をすこし回ってから同定場所に戻った。他のメンバーも無かった無かった言いながらもバカマツタケ、ハタケシメジ、ウラベニホテイシメジ、クサウラベニタケ、ニガクリタケ、ホウキタケやイグチ類などなど秋のきのこが少しずつ集まっていた。流石だ。ヒイロチャワンタケモドキの赤がとてもうつくしい。

私の住んでいる場所の近くではウラベニホテイシメジなども無いので、生えてるところを見たかったなあと思痴りつつ、来年を楽しみにしようと考えた今年最後の観察会だった。(菊乃)

観察記録 (50音順) ()内は博物館の標本番号
アオゾメタケアカヤマタケ (FB-44035)、アカヤマドリ、アシボソノボリリュウ、アメリカウラベニイロガワリ、アラゲキクラゲ、イヌセンボンタケ (FB-44021)、イロガワリフウセンタケ、ウコンハツ、ウスヒラタケ、ウラベニガサ、ウラベニホテイシメジ、オニフウセンタケ (FB-44025)、カキシメジ、カノシタ、カバイロツルタケ、カレバキツネタケ、キシメジ、キショウゲンジ、キタマゴタケ、キツブナラタケ、クサウラベニタケ、*Kumanasamuha* オオゴムタケの不完全世代 (FA-44028)、クリカワヤシャイグチ (FB-44026)、クロハツ、クロラッパタケ、ケロウジ、コウモリタケ、コガネヤマドリ、コタマゴテングタケ、コテングタケモドキ、コフキサルノコシカケ、サクラシメジ、サクラタケ、サマツモドキ、シロアンズタケ (FB-44023)、シロオニタケ (FB-44019)、



第84回観察会 集合写真 2018年10月13日 於：いちはらクオードの森 (旧市原市民の森)

スギエダタケ(FB-44036)、スッポンタケ、スミゾメヤマイグチ、タマゴタケ、タマシロオニタケ、チチアワタケ、チリメンタケ(FB-44018)、ツチグリ、ツルタケ、テングタケ、テングタケダマシ(FB-44032)、ドクツルタケ、トビチャチチタケ、ナラタケ、ニオイキシメジ(FB-44029)、ニオイコベニタケ、ニガクリタケ、ニクウスバタケ、ニセキンカクアカビョウタケ、ヌナワタケ(FB-44022)、ノウタケ、ハイイロイタチタケ、ハエトリシメジ、バカマツタケ、ハタケシメジ、ハツタケ、ヒナアンズタケ、ヒョウモンクロシメジ(FB-44024)、フクロツルタケ、ブナシメジ(FB-44034)、ベニセンコウタケ、ミドリニガイグチ、ミネシメジ(FB-44031)、ミヤマザラミノヒトヨタケ、ミヤマタマゴタケ、ヤシヤイグチ(FB-44040)、ヤマドリタケモドキ、*Agaricus*、*Cortinarius*、*Dermocybe*、*Entoloma*(FB-44027)、*Geastrum*、*Hebeloma*、*Hygrocybe*、*Inocybe*、*Laccaria*、*Lactarius*、*Lepista*(FB-44030)、*Panaeolus*(FB-44037)、*Panaeolus*(FB-44041)、*Psathyrella*(FB-44038)、*Psathyrella*(FB-44039)、*Ramaria*、*Russula*、*Suillus*(FB-44020)、*Tricholoma*(FB-44033)、*Tylopilus*

【第62回日本菌学会参加】

日時:2018年5月26日(土)~27日(日)
場所:信州大学農学部
(長野県上伊那郡南箕輪村)

日本菌学会第62回長野大会のアマチュアの会有志によるコーナー「アマチュア研究者の取り組み(2018年)」へ参加、本会のポスター紹介と会報の展示を行いました。

【自然誌フェスタ千葉】

日時:2018年11月3日(土・文化の日)
場所:千葉県立中央博物館

今年で5回目となるこのイベントは、千葉県立中央博物館と連携して調査研究をおこな

っている様々な団体が一堂に集まり、それぞれのブースにて活動の様子や成果を展示、体験コーナーを通じて紹介し合い、千葉の自然と文化についての知見を広めることができるというものです。本会は例年通り、ポスターによる活動報告と会報や絵葉書の販売、きのこスタンプによる図鑑づくりを行いました。

博物館では、秋の展示『房総丘陵はすごい!』が開催されており、本会会員の発見による、きのこのタイプ標本も展示されておりました。文化の日は入場無料なので、皆さま、今回はぜひお誘いあわせてご参加を!

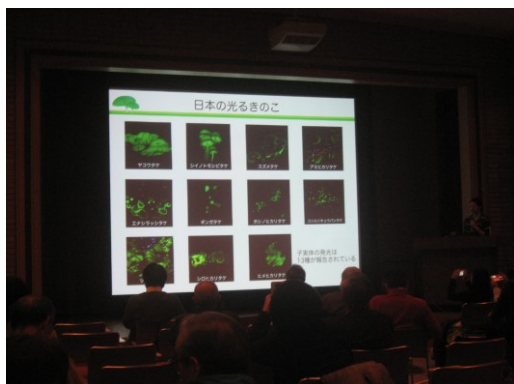
【講演会】

日時:2018年12月16日(日)
場所:千葉県立中央博物館講堂
演題1:「八丈島の光るきのこ」
講師:大場由美子(東京農業大学)
演題2:「博物館ときのこ30年」
講師:吹春俊光(千葉県立中央博物館)
参加者数:80名(会員64名、一般16名)
※千葉県立中央博物館との共催で行われた。

<演題1>

講師の大場由美子さんは東京農業大学分子生命科学科分析化学研究室に在籍する若き研究者です。今回は八丈島で研究されていた光るきのこの特徴と発光のしくみ等を平易に紹介して頂きました。お話によると、光るきのこは69種、種類別にはナラタケ類5種、ツキヨタケ類12種、クヌギタケ類52種が知られ、日本には13種、八丈島にはヤコウタケ、エナシラッシタケ、シイノトモシビタケ、スズメタケ、アミヒカリタケ、ギンガタケ、アリノトモシビタケの7種が発生します。八丈島では観光促進の一環としてヤコウタケ、エナシラッシタケ、スズメタケ、アミヒカリタケの人工培養が行われ、観察会も開催されます。発光のしくみについての研究は1960年頃から始まり、1993年頃には化学的反応であるこ

と、2009年頃には酵素によるルシフェリン反応であることが解明されました。きのこのがなぜ光るのかについては誘引説（虫等を集め胞子を拡散）、警告説（捕食者に警告）、進化説（元々は全種が発光していたが無駄なので多くは発光を止めた）、解毒説（体内の代謝過程の副産物）、ホームセキュリティ説（ボディガードを呼ぶ）があるそうです。



<演題2>

千葉菌類談話会の講師および事務局を担当して下さっている吹春俊光さんは平成30年度末で千葉県立中央博物館を退職されました。吹春さんは博物館設立準備の段階から携わってこられ、菌類標本を一から収集作成、千葉県の菌類目録を作成する一方で、研究論文を発表されるなど、菌類研究に貢献されてきました。また千葉菌類談話会を立ち上げ、その専門知識と明るく優しい人柄から、多くのきのこ愛好の人々を引きつけてきました。その30年間の歩みをスライドで紹介されました。若かりし頃の懐かしい写真も多くあり、感慨深いものでした（p70～p101に講演録があります）。なお、吹春さんは引き続き博物館に勤務されます。これからもよろしくご指導ください。講演会の後は忘年会が行われました。

【第27回スライド会】

日時：2019年1月12日（土）
 場所：千葉県立中央博物館講堂
 参加者数：59名（大人59名、子供0名）

年々自慢の写真にとどまらず、研究や観察の発表の場になってきています。小物展示でも、きのこ愛はさまざまな表現へ進化を続けております。いまから次回が楽しみです。終了後は、新年会となり会員同士の交流を深めました。今回、恒例の「すずらん」によるハンドベル演奏は、調整がつかずにお休みとなりました。

スライド発表（発表順）

- 須賀良行：2018年のきのこ
- 前川啓二：きのこ どんな子 ふしぎな子
- 小倉豊史：菌類を育てる！
- 大久保泰和：ロクショウグサレキンの仲間
- 中島淳志：TraitBankにおける菌類形質データの現状分析
- 吹春俊光：きのこに寄生するきのこ
- 大作晃一：タイムラプスをやろう！
- 浅井郁夫：カミコンに見せたかったきのこーアオロウジ大群落ー
- 林 智絵：スエヒロタケに対するアロマ製油における抗菌性の実験
- 根田 仁：日本産ヒラタケ属について
- 波部 健：徐々に奇妙な菌類

小物展示コーナー

- <写真・書籍・資料等>
- ・『ヤマドリタケモドキの発生 - 行田公園11年目のデータ -』&船橋のキノコ
- <小物展示品>
- あみぐるみきのこ（テングタケ属、ツチグリ、サンコタケなど）、手芸アート作品（ウシグソコナヒトヨタケのブローチ・オゾニウムまで表現したコキララタケのペンケース・ヒイロタケとシュタケのワインボトルケース・ツマミタケの観察オブジェ）、本物のカゴタケをつかったアクセサリ、きのこの精ファミリー、スタンプ、メモ帳、ポストカード、包装紙、絵付けきのこ、クリスマスオーナメント、キャラメル、他。
- ※ お名前 嬉 愛 させ っ て いた だ き ま し た。